

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい 東ユニット		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成28年2月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者、ご家族との関係を深め、アットホームで笑いが絶えない日常を創り出しています。また、地域交流により地域との関わりがより近いものになってきております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者が併設の小規模多機能事業所と兼任してから1年経過し、小規模多機能と2ユニットの職員が互いに協力し合いながら、利用者が笑顔で気持ちよく過ごしてもらえる取り組みをしている。「地域包括ケア」の考え方のもと運営推進会議を地域との交流の場に位置づけ、シニアサロンと名づけて地域2地区の高齢者と利用者が一緒にゲームやカラオケ・体操などを行っている。参加した住民から「これを楽しみにしてる」「又来るでね」などの声が聞かれている。夏休みは子供会とのふれあい交流会を開催し、中学生の「ちょこっとボランティア」の受け入れなど子供とのふれあいで利用者の喜ぶ笑顔が増えている。海に近い環境から防災の意識は高く、推進会議には地域自主防災会が参加し施設・防災設備を見学して地域との協力体制作りにつなげている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内各所に掲示して自然と目に入るようにしています。また、日常の中で理念に基づいての話をしたりし実践できるようにしています。	「地域との交流の下であきの来ない暮らしができる様に支援にあたる」の法人理念を事業所理念とし、管理者は個人的に相談があった時やミーティングで、理念に沿っているかを考えるように話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回新聞を同地区と隣地区に回覧してもらったり、子供会、敬老会、市内の女性の会との交流を持ち、地域の一員として関係を築いています。	隣接する公民館の敬老会の時に、管理者が声をかけたのをきっかけに交流が始まり行事に参加している。小学校の通学路になっていて、学校帰りの小学生が入り口まで挨拶に来てくれたり、女性の会はボランティアに訪れ、夏祭りで協力してくれる。キャベツなどの野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会の行事に毎月参加させてもらったり、夏祭りに地域の方に来てもらったり、地域のボランティアの方に来てもらったりして理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の様々な方を招き、意見をいただいたり相談を受けたりし、頂いた意見や、相談内容などをサービス向上に活かせるようにしています。	4月の推進会議では事前に市にも通知し、2地区の自治会三役・地区防災・民生委員が参加して地域密着型サービスの活動計画を話し合っている。推進会議として6月と11月にシニアサロン、8月には子供会とのふれ合いを行い、地域の理解や支援を得る取り組みをしている。	家族会に参加する家族には議事録で推進会議の状況を説明しているが、出席できない家族にも議事録を開示し、家族に推進会議の参加が促せる様な取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事や会議などには市担当者に参加要請をするなどしたり、サービス内容について相談したりして助言を頂いたりしています。	長寿介護課から事業所の状況報告で情報を知り、ショートを受け入れ要請などがある。生保の受け入れをして担当職員との連携があり、地域包括職員がシニアサロンの見学に来ている。介護相談員が定期的に訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体が身体拘束ゼロ宣言をしている事を理解したうえで、身体拘束は行っておりません。	ヒヤリハット事例から優先順位を考え、転倒リスクの高い人から対応している。夜間に転倒を繰り返す利用者の居室を少し開け、職員は通るたびに様子を確認し、早めの対応が出来るようにしている。外に出たい人の理由を理解し、一緒に歩いたり話を聞くなど拘束をしないケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待についての話を個々にしたり、全体に話をしたりして虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があるご利用者に支援しており、また、いつでも支援できる体制をとれるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解りやすい説明を心掛け、一つずつ確認しながらすすめています。質問などあった時には理解し納得していただけるまで説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入口にご意見箱の設置をしたり、面会に来られた時に要望を聞いたりし、意見や要望を、反映できるよう努めています。	家族会や面会時に日頃の状態を伝え、意見を聞いている。急変時は電話で報告し対応を相談している。昨年数名の職員が退職し、家族から「職員の人数が足りてないのではないか？」の意見をもらい、派遣を利用したり、法人から手伝いが来るなど対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい体制を心掛けており、職員への声掛けを行い、意見や要望に耳を傾けるようにしています。一人の意見でもみんな話し合い良い方向に向いていけるように話し合っています。	2ヶ月に1度のミーティングの他に、職員から2ユニットの利用者の様子を把握したいとの意見が出て、毎日ユニット合同で全利用者の状態を話し合うショートミーティングを行うようになった。月1回の希望休や休日の取り方を話し合い、叶えられるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人をよく理解し、見てくれており、常に声掛けをしてくれます。職員がやりがいをもち、向上心を持って働けるよう話を聞き、アドバイスをしたり、ねぎらってくれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の後押しをしてくれたり、案内があれば知らせてくれます。また、職員が参加したい研修などがあると、シフト調整を要請してくれます。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着部会に参加して交流を図ったり、他施設での勉強会や市で行う研修会に参加したりして交流を図り、意見交換や、アドバイスをもらいサービス向上に取り組むよう努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、要望に応えられるよう努め、細かく観察をし、小さな異変を見落とさず声掛けし安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望をよく聞き、施設側が出来ること、出来ないことを明確にし、お互いが理解したうえで共通の認識が持てるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状態、環境などを理解し、その方に合った支援方法を提案し、本人、家族が必要とする利用方法ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、利用者に寄り添った立場で日常生活を送ることで暮らしを共にする者同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族と施設は「一つのチーム」と考えていることを話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るようにしており、日頃の生活の中で来訪者の話をしたりして思い出してもらうなどしています。地域行事に参加したりして関係性が途切れないように努めています。	近くの文化公園で開かれる年2回の催し物に、昔食べていたお菓子などの出店があり、利用者と一緒に出かけ近隣の人と交流している。自宅付近をドライブして変化して行く景色を見ることがある。イベントで近隣2地区から入居している人の友人や知り合いとの交流が続いている。	

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、人間性を把握し、全員が一体感を持って安心して安全に暮らせるよう職員が架け橋となるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、必ず「いつでも相談があれば相談して下さい。」と伝え、相談があった時には出来る限りの対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご利用者との会話で希望や要望、意向を聞き出せるよう努め、ご家族との話し合い、職員との話し合いを持って、思いや意向を把握できるよう努めています。	表出できない利用者の意向や思いを知るために、家族から生活歴や昔言っていたこと・好きなことや嫌いなことなどを聞いている。暮らしの中で日頃の様子から職員が本人の視点にたって話し合い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報提供してもらい一人一人のこれまでの暮らしを把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態変化があったときは申し送り、申し送りノートにも記入し、全員が現状把握をするように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や状態が変わった時など必要に応じて話し合いをし、様々な方向から意見やアドバイスをもらい、現状に適した介護計画の作成をしています。	職員は全利用者のケアや、気づいたことを書き出し、2ヶ月に1度のロングミーティングや毎朝のショートミーティングで話し合い、参加できなかった職員からの意見も参考にしてケアマネが作成している。ケア変更などは、検討して決定した事をノートで共有し、変化に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違う言動や行動など支援に必要なキーワードは記録し、職員全員が共有できるようにしています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて柔軟な対応が出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物などご本人と一緒に買いに行ったり、近くのコンビニへ散歩しながら買い物に行ったりしています。また、近くの公園に散歩に出かけたりします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を希望され利用されている方が多いが、今までのかかりつけ医を継続して利用されている方もいます。	診療方針や緊急時の判断は家族なので、医師との関係作りをして欲しいことを契約時に説明し、家族対応で受診している。バイタルや様子を紙面で渡し、結果は伝えてもらっている。緊急時や、家族が行けない場合は職員が対応している。状態の変化は電話で家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にいつでも連絡、相談がとれる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の状態把握に努め、入院した際に正確な情報をスムーズに提供出来るようにしています。また、病院の相談員との情報交換など		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態の著しい変化があった場合や、終末期に近いと思われるご家族と、今後の方針について話し合いをしています。	契約時に家族に看取りの指針を示し、事業所では医療行為が出来ないことの説明をして、同意書をもっている。本人・家族の希望があり、主治医の往診を受けることができ自然の流れでの看取りの場合、職員が支援する体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っておらず、定期的に行えるような計画を今後施設内の防災委員会と話し合う機会を持つようにします。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年間2回程行っており、消防署と地域の防災委員に声掛けをし、行っています。また、土地柄津波に備えてライフジャケット、ヘルメット着用の訓練をしています。	年1回は消防署参加で、前回の課題を基に火災・地震の訓練を行っている。運営推進会議に2地区の地域自主防災会が参加し、防災設備・非常口・滑り台などの視察をして、災害時の協力体制を築いている。津波・地震の夜間想定訓練は2年に1回行っている。利用者のトリアージを作成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添ったケアをすることで、人格を尊重し、プライバシーを守る声掛けをしています。	職員を実の子供や孫のように信じて接してくる利用者には、本人の思いを知った上で、否定することなくその人にあつた対応をしている。方言を使いながらも、トイレ誘導の声かけなどは、羞恥心に配慮した言葉使いをするように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時のご利用者の状態を見て、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分け自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているものの、一人一人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来訪して頂き、希望通りに散髪、顔剃りをいただいています。また、今まで使用していた化粧品類も継続して使われる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で、同じ物を食しながら色々な話をしながら楽しく、美味しく食事ができるように心掛けています。	2ユニットの利用者と職員の食事を専属調理人が作っている。1週間毎にメニューを作成し、食材は配達されるが、地域からキャベツなどの貰い物があれば、ホットプレートで焼きそばをしたりメニューを変更している。利用者の家族がおやつを持ってきてくれることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、必要量摂れているか確認をしています。また、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛けを行っていますが、毎食できない方もいるため夕食後に重点をおいて行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立の方はいないため、排泄パターンを把握し誘導したり、声掛け、見守りにて支援しています。	一人でトイレに行ける人でも、必ず見守りして声をかけ、状態の把握をしている。排泄パターンを確認して様子を見守り、羞恥心に配慮した誘導で、車椅子の人も日中はトイレで排泄するように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、野菜を多く取り入れたり、体操や歩行運動などによって便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度の入浴となっておりますが、入浴が好きな方や、その日の状況によっては続けて入浴されるかたもいます。	概ね午前中に2～3人が入浴する。拒む人には職員を代えたり、声かけの工夫をしているが、拒否の強い場合は無理強いせず、翌日にしている。トイレからそのまま浴室に誘導して入浴することもある。同一建物にあるデイサービスの炭酸泉風呂に1～2ヶ月に1度位入りに行くことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に合わせて昼食後、お昼寝への声掛けをしたり、夜の入床時間も一人一人の生活リズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りの服薬介助を行っています。通院後の通院記録を確認することで薬の変更などを確実に把握し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来ることを役割として行って頂き、出来る力の維持を兼ねての支援をしています。また、嗜好品の買い物をする事で楽しみを作ったりしています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 東ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせて希望通り外出することがなかなか難しい時もあるので、季節や天候に合わせて、外出レクリエーションを行っています。また、ご家族と外食したり、外泊される方もいます。	「洋服が欲しい・牛乳を買いいたい」などの希望を聞いて職員と出かけている。花見や助六弁当を持ってみかん狩りに行くことがある。ファミレスでおやつを食べたり、フードコートに好きなものを選んで食べに行くこともある。居間から出られるベランダで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族と施設が管理していますが、ご本人の希望によっては、お小遣いの中から買い物出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があればご本人に電話口に出てもらいご家族とお話して頂いたり、手紙が届いたときには、ご自分で手紙を書くことが困難な場合は職員が近況報告したりして対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドの調整をすることで自然の光を取り入れています。寒い時には日が当たる南側にソファや椅子を持っていき、日向ぼっこ出来るように支援しています。	高い天井の天窗から、ほど良い明るさの日差しが入る。戸の開閉時の音や椅子を引き出す音など不快にならないよう互いに注意し、その日の状態や様子を把握して席の配置を決めている。職員の手による季節の飾りや干支の猿などは、目に留まりやすいように立体的に作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を行う時にはみなさんとテーブルを囲んだりして時間を共有したり、自由に居室で過ごして頂いたり、それぞれ思い思いに過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震の関係上、重いたんすなどの持ち込みは遠慮して頂いておりますが、長年使い慣れた馴染みの物を居室で使用して頂き、心地よく安心して過ごせるよう支援しています。	混乱を招かないように、家族から自宅で寝ていた時の向きなどの情報を聞いてベッドの位置を決めている。物を大切にしたり、探し物をしたい人などの気持ちを生活歴や日常生活から把握して、利用者が安心して居室で過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように障害物をなるべく取り除いております。また、手すりを使って歩行できる方には少しでも歩行してもらおう事で自分の力が使えるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200155		
法人名	有限会社ワイエイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティあらい 西ユニット		
所在地	静岡県湖西市新居町新居117-3		
自己評価作成日	平成28年2月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2278200155-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成28年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者、ご家族との関係を深め、アットホームで笑いが絶えない日常を創り出しています。また、地域交流により地域との関わりがより近いものになってきております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内各所に掲示して自然と目に入るようにしています。また、日常の中で理念に基づいての話をしたりし実践できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	月に1回新聞を同地区と隣地区に回覧してもらったり、子供会、敬老会、市内の女性の会との交流を持ち、地域の一員として関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会の行事に毎月参加させてもらったり、夏祭りに地域の方に来てもらったり、地域のボランティアの方に来てもらったりして理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の様々な方を招き、意見をいただいたり相談を受けたりし、頂いた意見や、相談内容などをサービス向上に活かせるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事や会議などには市担当者に参加要請をするなどしたり、サービス内容について相談したりして助言を頂いたりしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体が身体拘束ゼロ宣言をしている事を理解したうえで、身体拘束は行っておりません。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日常的に虐待についての話を個々にしたり、全体に話をしたりして虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に学んでおり、必要性があるご利用者に支援しており、また、いつでも支援できる体制をとれるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解りやすい説明を心掛け、一つずつ確認しながらすすめています。質問などあった時には理解し納得していただけるまで説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席要請、事業所入口にご意見箱の設置をしたり、面会に来られた時に要望を聞いたりし、意見や要望を、反映できるよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話しやすい体制を心掛けており、職員への声掛けを行い、意見や要望に耳を傾けるようにしています。一人の意見でもみんなです話し合い良い方向に向いていけるように話し合っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人一人をよく理解し、見てくれており、常に声掛けをしてくれます。職員がやりがいをもち、向上心を持って働けるよう話を聞き、アドバイスをしたり、ねぎらってくれます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の後押しをしてくれたり、案内があれば知らせてくれます。また、職員が参加したい研修などがあると、シフト調整を要請してくれます。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着部会に参加して交流を図ったり、他施設での勉強会や市で行う研修会に参加したりして交流を図り、意見交換や、アドバイスをもらいサービス向上に取り組むよう努めています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をよく聞き、要望に応えられるよう努め、細かく観察をし、小さな異変を見落とさず声掛けし安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や要望をよく聞き、施設側が出来ること、出来ないことを明確にし、お互いが理解したうえで共通の認識が持てるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一人一人の状態、環境などを理解し、その方に合った支援方法を提案し、本人、家族が必要とする利用方法ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを大切にし、利用者に寄り添った立場で日常生活を送ることで暮らしを共にする者同士の関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との話し合いの中で、家族と施設は「一つのチーム」と考えていることを話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも出来るようにしており、日頃の生活の中で来訪者の話をしたりして思い出してもらおうなどしています。地域行事に参加したりして関係性が途切れないように努めています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格、人間性を把握し、全員が一体感を持って安心して安全に暮らせるよう職員が架け橋となるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時、必ず「いつでも相談があれば相談して下さい。」と伝え、相談があった時には出来る限りの対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご利用者との会話で希望や要望、意向を聞き出せるよう努め、ご家族との話し合い、職員との話し合いを持って、思いや意向を把握できるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報提供してもらい一人一人のこれまでの暮らしを把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で状態変化があったときは申し送り、申し送りノートにも記入し、全員が現状把握をするように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的や状態が変わった時など必要に応じて話し合いをし、様々な方向から意見やアドバイスをもらい、現状に適した介護計画の作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段とは違う言動や行動など支援に必要なキーワードは記録し、職員全員が共有できるようにしています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて柔軟な対応が出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物などご本人と一緒に買いに行ったり、近くのコンビニへ散歩しながら買い物に行ったりしています。また、近くの公園に散歩に出かけたりします。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関を希望され利用されている方が多いが、今までのかかりつけ医を継続して利用されている方もいます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にいつでも連絡、相談がとれる体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者の状態把握に努め、入院した際に正確な情報をスムーズに提供出来るようにしています。また、病院の相談員との情報交換など		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に方針の確認をしていますが、状態の著しい変化があった場合や、終末期に近いと思われるご家族と、今後の方針について話し合いをしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っておらず、定期的に行えるような計画を今後施設内の防災委員会と話し合う機会を持つようにします。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年間2回程行っており、消防署と地域の防災委員に声掛けをし、行っています。また、土地柄津波に備えてライフジャケット、ヘルメット着用の訓練をしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に寄り添ったケアをすることで、人格を尊重し、プライバシーを守る声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時のご利用者の状態を見て、オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンを使い分け自己決定出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているものの、一人一人のペースで過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんに来訪して頂き、希望通りに散髪、顔剃りをさせていただいています。また、今まで使用していた化粧品類も継続して使われる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓で、同じ物を食しながら色々な話をしながら楽しく、美味しく食事ができるように心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、必要量摂れているか確認をしています。また、一人一人に合わせた食事形態で提供しています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に声掛けを行っていますが、毎食できない方もいるため夕食後に重点をおいて行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立の方はいないため、排泄パターンを把握し誘導したり、声掛け、見守りにて支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で、野菜を多く取り入れたり、体操や歩行運動などによって便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には三日に一度の入浴となっておりますが、入浴が好きな方や、その日の状況によっては続けて入浴されるかたもいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣に合わせて昼食後、お昼寝への声掛けをしたり、夜の入床時間も一人一人の生活リズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について把握し、医師の指示通りの服薬介助を行っています。通院後の通院記録を確認することで薬の変更などを確実に把握し、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来ることを役割として行って頂き、出来る力の維持を兼ねての支援をしています。また、嗜好品の買い物をする事で楽しみを作ったりしています。		

静岡県(グループホーム サンシティあらい 西ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に合わせて希望通り外出することがなかなか難しい時もあるので、季節や天候に合わせて、外出レクリエーションを行っています。また、ご家族と外食したり、外泊される方もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族と施設が管理していますが、ご本人の希望によっては、お小遣いの中から買い物出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの希望があればご本人に電話口に出てもらいご家族とお話しして頂いたり、手紙が届いたときには、ご自分で手紙を書くことが困難な場合は職員が近況報告したりして対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドの調整をすることで自然の光を取り入れています。寒い時には日が当たる南側にソファや椅子を持っていき、日向ぼっこ出来るように支援しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクリエーションや体操を行う時にはみなさんでテーブルを囲んだりして時間を共有したり、自由に居室で過ごして頂いたり、それぞれ思い思いに過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震の関係上、重いたんすなどの持ち込みは遠慮して頂いておりますが、長年使い慣れた馴染みの物を居室で使用して頂き、心地よく安心して過ごせるよう支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自由に動きがとれるように障害物をなるべく取り除いております。また、手すりを使って歩行できる方には少しでも歩行してもらう事で自分の力が使えるように支援しています。		